

令和7年度

天草市

社会を明るくする運動

作文コンテスト

入賞作文集



“社会を明るくする運動” 天草市推進委員会

目次

最優秀賞

自然のためにみんなのために

天草市立五和小学校

六年

野崎のざき 美月みづき

1

優秀賞

繋がりを通して社会を明るく

天草市立本渡北小学校

六年

立花たちばな 悠はるか

3

社会に明るさを取りもどすために

天草市立本渡北小学校

六年

富田とみた 将生まさき

5

天草地区保護司会賞

あいさつで地域を明るくするために

天草市立新和中学校

一年

浪床なみとこ 一歌いちか

7

奨励賞

誰もが暮らしやすい街づくり

天草市立本渡北小学校

六年

船津ふなつ 陽向ひなた

9

「自然のためにみんなのために」

天草市立五和小学校 六年 野崎 美月

わたしの住む五和町には、きれいな自然がたくさんあります。野生のイルカに会えたり、若宮海水浴場で泳いだり、ウミウシなどの海の生き物を見つけたりすることが出来ます。社会を明るくするためにこのような美しい自然を守ることは、とても大切なことだと思います。なぜなら自然には、人の気もちをいやすしたり、感動させたりする力があると思うからです。

五和町には、ホタルが生息している内野川という場所もあります。わたしはホタルを守るために、内野川清掃を行いました。内野川には、ホタルのエサになるカワニナが住んでいます。カワニナが生きていくには、きれいな川が必要です。しかし、内野川を見てみると、緑のコケでいっぱいでした。そこで、わ

たしたちは、地域の人たちと協力して、石のコケを落としました。デッキブラシを使って力を入れてこすりました。コケは、すぐに落ちたので、たくさん石をきれいにすることができました。川の中には、コケのような物で水の出るところがつまった場所があったので、そこも落としました。川には、カワニナを食べるこいがいることも教えてもらいました。

「こいを見つけたらつかまえて。」と言われてので、つかまえようとしたが、にげられました。初めは、こいをつかまえるなんてとびっくりしたけど、ホタルを守るために必要な事なんだとわかりました。清そうが終わった後、すっきりとした気持ちになりました。地域みなさんから、お礼の言葉をも

らって達成感でいっぱいでした。この美しい自然がだれかの心のいやしになってくれるといいと思いました。

家ぞくでホテルフェスタに行きました。ホテルフェスタでは美しいホテルを見たり、おいしい食べ物を食べたりすることができました。地域の人もうれしそうにホテルを見ていました。みんなにとってこのフェスタが、いこいの場になっているのだなと思いました。

このような地域の交流の場も社会を明るくするために、必要なことだと思いました。みんなとホテルを見ながら楽しむことで笑顔がうまれつながりができます。

私は、内野川清掃とホテルフェスタへの参加を通して、社会を明るくするためには、美しい自然と地域とのつながりがかせないと思いました。これからは、美しい自然を守るためにゴミ拾いをしたり、ボランティア活動に積極的に参加したりしていきたいです。また、地域とのつながりを大切にするために、気もちの良いあいさつをし、地域の行事にも

参加したいです。

「繋がりを通して社会を明るく」

天草市立本渡北小学校 六年 立花 悠

みなさんは社会を明るくし、非行をなくすにはどうすればよいと思いますか。

私は社会を明るくし、犯罪や非行をなくすには、たくさんの人と触れ合い、お互いについて知り、交流を通じて人と人が繋がること大切です。

なぜなら、交流を通じて、相手のことを理解し、自分自身の事も理解してもらえ、きつかけができるからです。まずは、その人の考え方や住む場所、世代による考え方の違いを学ぶ事ができます。そして次に、自分の事を周りの人に知ってもらえます。そうするとお互いの壁がなくなり、理解し尊重をしあえる関係を築くことができると思うからです。

私も実際四年生の時に、地域の方々と昔遊

びなどをして交流した経験があります。そのときに、知らない昔のことを知るきっかけにもなり、地域のご高齢の方とも楽しく交流することができました。また、自分たちが今頑張っている歌を披露し、自分たちの頑張りを知ってもらうこともできました。

五年生の時に行った幼稚園・保育園交流でも、小さな子たちと一緒に遊んだり、来年年生になる子との仲を深めたりすることができました。そのおかげで、今年の一年生とは声をかけたり遊んだりする関係性をすぐに作ることができました。

このように色々な世代との交流を通して、お互いの事を知り、自分たちの事も知らせる事ができます。このような交流がいろいろな場所に広がれば明るい社会を築くことができます。

ると思います。

また、学校の授業での交流以外でも、登下校中の挨拶や、ちょっとしたボランティア活動、地域のイベントへの参加などたくさんの人たちと交流することができると思います。

社会をより明るくし、非行をなくすためには、小学生の時に、積極的に地域と関わる活動を行い、中高生になってからは地域だけでなく地域以外の国際的な交流も行い、たくさんの人と繋がることで広い社会がより明るくできると思います。また、大人になってからも趣味などの活動を通じて交流したり、地域の様々なイベントに参加を続けたりすると、孤独にならないので、何か問題が起こっても一人で悩まず相談できて犯罪の防止もできると思います。

私は、これからも小学校の授業だけでなく、地域のイベントに参加することでたくさんの方々と交流し、人と人との繋がりを強くしていきたいと思います。そして、一人で悩む人や苦しむ人がいなくなるような社会を目指し

て過ごしていきたいと思います。

「社会に明るさを取りもどすために」

天草市立本渡北小学校 六年 富田 将生

ぼくは今まで色々なものに守られながら生きてきました。そのおかげで命の危険にあうこともなく、安心して生活することができています。しかし、ニュースを見ると、毎日のように事件が起きています。しかも、未成年の子どもが被害にあっていたり、未成年が事件を起こしてしまっていたりすることがあります。だから、今自分がこうやって生活していることが、とても幸運なことだと思っています。ぼくが、家でテレビを見ている時にも、他の誰かが命の危険にさらされているのかと考えると、どうやって命を守ればいいのか分からなくなってきました。少しでも悲しむ人が減るように考えてみようと思います。

まず、犯罪をなくすために、命の大切さを知ることが大事だと思います。ぼくもそうでしたが、「生きる」ことを当然とっている人が多いのではないでしうか。当たり前すぎてその大切さを忘れてしまっているのだと思います。それが、犯罪をおかしてしまうことにもつながってしまふのかもしれない。だから、今生きていることに感謝して生きることが大切だと思います。

次に、「社会を明るくすること」が大切だと思います。社会を明るくするとは、身の回りの人や地域の人と力を合わせて、犯罪のない安全で安心な町を作るということです。学校も同じだと思います。例えば、あいさつをしたり、ボランティア

活動をしたりすることが考えられます。大きな声で笑顔であいさつをすると、されている人はもちろん、している人も清々しく良い気持ちになると思います。ボランティアをすると町や学校がきれいになって過ごしやすと思います。きれいな場所で過ごすと、心が明るくなり、心にも余裕が出てきます。でも、逆を考えてみてください。あいさつもなく、学校が汚かったりすると、イライラするところが増え、人や物に当たってしまいたくなる。ことが増えてくると思いませんか。自分の気持ちを落ち着かせるためにしてしまったことで、人を傷つけたり、物を壊したりしてしまうことにもつながりかねません。とはいっても、いい環境の時でも、気持ちが悪く落ち着かないこともあると思います。その時は、周りの人が気付けてあげてやさしい言葉をかけてあげる。いいと思います。そして、自分の気持ちを話し、心をスッキリさせていくと、

心が落ち着くと思います。また、人や物に当たる前に、一度冷静になって考え直すことも大切です。自分で自分の気持ちをコントロールしていくことで、トラブルも減ると思います。

この作文を書くことを通して、自分の考え方も少し変わりました。自分から気持ちのいいあいさつを心がけていきたいです。また、ボランティアも「みんなのため」という意識をもってやっていきたいです。こういう気持ちをもつてよくがやってみるだけで、一人でも悲しむ人が減り、明るい社会になるとうれしいです。

一人一人の意識の変化で何かが変わるかもしれない。だから、他の人も少しだけでも意識を変えてみるといいかもしれません。

「あいさつで地域を明るくするために」

天草市立新和中学校 一年 浪床 一歌

社会を明るくするために、自分にできることは何だろう。

と考えたときに、初めに思いついたことは、あいさつでした。

私は、自転車で通学しています。中学校に向かっていると、道ばたを歩いている地域の人や通学を見守ってくれている地域の人があります。私はなるべく笑顔で元気よくあいさつすることを心がけています。

「いちかさん、中学校は楽しい？」

と、聞いてくださる方もいて、地域の方に見守られている安心感と、声をかけてくださることに喜びを感じます。

いつも朝すれ違う時、車から手を振ってくれる近所の人があります。声は届かないけれども毎日笑顔で手を振ってくれます。いつも、私

に気がついてくれていることがうれしく思い朝からあまり気分がのらない日でも、少し前向きに頑張ろうという気持ちに変えてくれます。

先生からこんな話がありました。

一万枚の紙を預かったと考えます。一日に五回、いい加減なことをすると九千九百九十五枚になります。でもそれとは逆に、人のために、自分のために、家族のために、学校のために人の喜ぶよい行いをしていると、紙は一枚ずつ増えていきます。

今日十回いい行いをして、一万に十枚増えたとしても、増えたことに気がつかないかもしれない。でも、毎日十枚ずつ増やしていくことを続けていけば、百日、二百日と重ねていって、少しの差がやがて大きな差になっ

ていきます。この話を聞いたとき、小さなあいさつの積み重ねも同じではないかと感じました。私が地域の方と手を振ったり、言葉を交わすことで感じた、安心感や前向きになる気持ち、私があいさつをしたことで地域の方と同じ気持ちを感じてくださっているのかもしれない。あいさつはそうやって人の心を明るくする、大事なコミュニケーションの一つだと感じます。みんながあいさつすること、地域は明るく前向きになり、居心地の良い社会を築けていけると思います。

私はこれからも、地域の人とあいさつを交わしていこうと思います。



奨励賞

「誰もが暮らしやすい街づくり」

天草市立本渡北小学校 六年 船津 陽向

社会を明るくするためには、犯罪をなくすことが大切だ。私は犯罪をなくす一つの行動として、「誰もが暮らしやすい街づくり」が大切だと思う。

どうしてそう考えるのか理由を述べたい。私は、テレビでニュースを見ているときに、罪を犯してしまった理由として「ついイラっとして」や「口論になった」など、気分を害された、または自分が過ぎにくい生活環境にされたという、何かに対して不快な感情を持った時に罪を犯してしまうことが多いことを知った。そう考えてみると、自分たちも正しくない行為をしてしまうときは、何かに対して不快に思う時ではないだろうか。実際私も、自分の意見が通らなかったときや、そっけない態度をとられたときなど、自分が不快

な気持ちになってしまったときに、正しくない行為をしてしまっている。逆に考えると、うれしい時や感動しているときに、果たして人は罪を犯すだろうか。

また、自分を「してはいけない事をしてしまった側」として、過去の実例とともに考えてみよう。してはいけない事をする時は「不快な気分になったとき」であったとして、まず、不快な気分になったときのことを思い出し、その出来事とその時の感情をまとめてみようと思う。あるとき、話していると何を言ってもちよつと嫌そうな顔をしてこちらを見るだけの友達がいた。「なんでそんな嫌そうな顔するの？」と聞いても、なんだかため息をつくだけで、訳が分からなかった。その時私はかなり嫌な気分で、帰ってから嫌な気分を持ち

続けたままだった。不快な気分の方はすごいもので、兄に少しちよっかいを出されただけでキレまくっていた。次の日登校すると、その友達は何にともなかったかのように接してきた。普通に笑いかけてくるし、話しかけてくるのもう訳が分からなかった。「え？じゃあ昨日のあれはいったい何だったの？」と思っても思い当たる節は全くと言っていいほどなかった。そんなことが何回も続いたので、さすがに頭にきてキレてしまった。この時のことを考えると、友達には悪いけど、友達が悪かったのではないだろうか。しかし、このとき友達に私が口論で済ますのではなく、暴力をふるって泣かせてしまっていたら、間違いなく怒られるのは私だろう。気分を害されたときの改善点はいったい何なのだろうか。友達に改善点があると考えて、私の気持ちは考えなかったのだろうか。人の気持ちを考えずに王様のような態度をとるのはどうかと思う。

自分の範囲内の自由をこえてしまうことは

ほかの人の自由を害することと一緒である。この場合、「友達は暮らしやすいが、私は暮らしにくい街」になってしまふ。しかし、逆の場合もある。私が考えなしに言ってしまったことが友達を傷つけてしまったのに、それに怒った友達が悪くなってしまうこともあるだろう。このときは、「私は暮らしやすいが、友達は暮らしにくい街」になるだろう。「誰もが暮らしやすい街」にするには、一体どうすればいいのだろうか。

これらの話から、「誰もが暮らしやすい街」にするためには、「第三者がどんなことがあってどちらが悪いかに完全に決めつける」ことをなくすことが大切になってくる。そもそも、何があつたかを完全に第三者が知ることはかなり難しい。だからこそ、自分の意見をしつかり人に言つて、人の気持ちを考え、完全に決めつけることをなくすことで「誰もが暮らしやすい街」にすることが大切だ。たくさんの人と関わり合いながら生活していく中では、少なからず不快な思いをすることも

あるだろう。そんな時でも、自分の事だけを考えるのではなく、「相手はどんな気持ちだろう。」と誰もが一步寄りそえる社会になると良いと思う。

令和7年度天草市“社会を明るくする運動”作文コンテスト実施要領

1. 趣旨

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

犯罪や非行をなくすためには、取締りを強化して、罪を犯した人を処罰するだけでなく、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすすめることも大切であり、そのためには、地域の全ての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があります。

そこで、次代を担う子どもたちに、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことをもとに、犯罪や非行のない地域社会づくりや犯罪や非行などに関して考えたこと、感じたことを作文に書くことを通じて、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的に、作文コンテストを実施します。

2. 主催

社会を明るくする運動天草市推進委員会

3. 応募規定

- | | |
|-------------|--|
| (1) 資 格 | 天草市内の小学生及び中学生 |
| (2) テ ー マ | “社会を明るくする運動”の趣旨を踏まえ、日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことをもとに、犯罪や非行のない明るい地域づくりや青少年の非行防止、犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたこと、感じたことなどを題材としたものとします。 |
| (3) 用紙・字数 | 400字詰め原稿用紙3～5枚を原則とします。
ただし、規定の字数に満たない場合も、一部の賞についての審査の対象とします。 |
| (4) 応 募 方 法 | 所属の小学校または中学校を通じて応募してください。 |
| (5) 応 募 締 切 | 令和7年5月16日（金）まで |
| (6) そ の 他 | ① 応募作品は自作及び未発表のものに限り、原本（手書きのもの）とします。
② 応募作品には、題名、学校名、学年、氏名を記入してください。 |

4. 応募先

社会を明るくする運動天草市推進委員会事務局（天草市教育委員会 生涯学習課内）

〒863-0034 天草市浄南町4番15号（天草市複合施設こらす内）

TEL 27-7788 FAX 23-8811

5. 表彰

- （1）応募作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点、天草地区保護司会賞1点、奨励賞数点、入選数点を選定し賞状を贈呈します。また、最優秀賞1点、優秀賞2点、天草地区保護司会賞1点、奨励賞数点には副賞（図書カード）を贈呈します。

ただし、規定の字数に満たない作品については、奨励賞、入選のみの対象とします。

- （2）入賞者・入選者については、令和7年6月中旬頃に所属学校長を通じて通知します。

- （3）入賞者については、“社会を明るくする運動”関連行事において表彰する予定です。

6. その他

- （1）優秀な作品は、“社会を明るくする運動”熊本県推進委員会が実施する熊本県作文コンテスト及び法務省・“社会を明るくする運動”中央推進委員会が実施する全国作文コンテストに推薦します。ただし、両コンテストの規定字数「400字詰め原稿用紙3～5枚」を満たす作品のみを対象とします。

- （2）熊本県作文コンテスト及び全国作文コンテストに応募する作品の著作権は、当該コンテストの主催者に帰属するものとします。

- （3）入選作品は、氏名及び学校名・学年とともに、“社会を明るくする運動”の啓発を目的とした啓発用品や冊子、チラシ、市政だより、ホームページ等に掲載することがあります。また、報道機関、インターネット等により公表される場合があります。

- （4）応募作品は原則として返却しません。

＊作品は出品者の意思を考え、原文のまま記載していますが、読みやすいように句読点や漢字、送り仮名、ひらがな等を一部修正しています。

令和７年度天草市“社会を明るくする運動”作文コンテスト入賞作文集

令和７年７月発行

発行 “社会を明るくする運動” 天草市推進委員会

編集 天草市教育委員会生涯学習課

天草市浄南町４番１５号

天草市複合施設ここらす

TEL ０９６９－２７－７７８８

FAX ０９６９－２３－８８１１

人はみな、
生かされて
生きてゆく。



更生保護ネットワーク